



Evangelism
Explosion
Japan

一般社団法人 EE JAPAN 季刊誌 (年3回/4月・8月・12月発行)

2025

4

Vol.12

行きて伝えよ

信徒伝道者の発掘・育成・増殖のために

父の救い、受洗の証

大阪救霊会館 副牧師 杉山 敏毅

「主がシオンを復興してくださったとき私たちは夢を見ている者のようであった。そのとき私たちの口は笑いで満たされ私たちの舌は喜びの叫びで満たされた。そのとき諸国の人々は言った。『主は彼らのために大いなることをなさった。』主が私たちのために大いなることをなさったので私たちは喜んだ。」

(詩篇126篇1～3節)

2024年8月12日、両親が受洗した時、この詩篇の御言葉のように私と妻は喜びで満たされました。

私は今から29年前にイエス・キリストを救い主として信じました。母教会で「家族の救いのために祈るんだよ」と教えられ、両親の救いのために祈り、イエス様の救いを伝えました。父は「お前がイエスを信じるのは良いが、私は信じない。もうその話はいいから、あっちへ行きなさい。」と言い、母は「お父さんが信じたら、私も信じる」と言いました。それでもあきらめずに聖書の教えを分かち合っても、父は異論を唱えました。当時私は、両親の救いを現実から遠いものだと感じていました。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます。」(使徒の働き16章31節)という約束の言葉がありますが、私の家族にはこのことは起こらないだろうと思ってしまい、自分1人だけで両親の救いを祈っているようで心細く感じていました。

私が信仰を持って2年ほどの時に、父と母と私は、イスラエルに旅行に行きました。不思議なのですが、言い出したのは父でした。父は医学交流でイスラエルに何度か行っていたのです。3人でシナイ山の頂上に

登り、日の出を見ながら、神様について話しました。その時も「信じる」とは言ってくれませんでした。何か感慨深いものを父も母も感じている様子でした。シナイ山で見た日の出の光、それは真っ暗やみに光が差し込んでくるもので、今思えば、神様はその時の暁の光のように両親の数を予め備えてくださっていたのだと思います。「すべての人を照らすそのまことの光が、世に来ようとしていた。」(ヨハネ1章9節)の言葉のように。

父は京都大学医学部を卒業後、病理学研究の道に進み、シカゴ大学、愛知がんセンターを経て、神戸大学、京都大学で教鞭を執り、また大学の施設の改革もしながら熱心に医学研究に従事して超多忙な日々を過ごしていました。宗教的には日蓮宗を信仰する家系出身で、古事記や日本書紀も読みました。宗教熱心ではありませんでしたが、キリストの救いからは遠いところにいるようでした。

一方、私は、将来神様の福音を伝える者になりたいと願い、聖書学校で学び、そこで志を同じくする妻と出会いました。妻はクリスチャンホームで生まれ育ち、神様を愛する女性で、結婚後、私の両親のために心を合わせて祈ってくれるようになりました。妻の両親、また妻の弟(今は牧師)も一緒に祈ってくださるようになり、本当に嬉しかったです。そしてもう一つ大きな出会いがありました。私の所属している大阪救霊会館にEEのチームが伝道に来てくださったのです。それが山中知義先生が率いるEEのアウトリーチ伝道チームでした。会衆に対して、恵み、人、神、キリスト、信仰について福音プレゼンテーションをされ、それが非常に力強く感じられ、また聖霊の濃厚なご臨在を感



じ、EEから何かを学びたいとの願いが与えられ、私は大阪から京都まで電車に乗ってEEの13週クリニックに何期か通わせていただきました。そのような中、EEのOn the Job Training (略してOJT) という伝道の実地訓練で、「伝道の対象者に、ぜひ私の父も入れて下さい」とお願いしたところ、山中先生が私の父親に福音プレゼンテーションしてくださったのです。その時OJTのメンバーたち、祈りのパートナーたちが私の父が福音を聞いて受け入れるように熱心に祈って下さいました。父がすぐに信じることはありませんでしたが、このEEで共に学ぶ方々の中から、OJT以外にも高橋裕子先生や杉野マリ子さんといった方々が私の両親の救いのために祈り、そして関わってくださるようになりました。「ふたりでも三人でも、わたしの名において集まる所には、わたしもその中にいるからです。」(マタイの福音書18章20節) 以前は私1人で祈り、伝道していたのですが、妻とその家族が祈ってくれ、また妻との間に生まれた娘たちも夜寝る前には、両親の救いのために祈り、そしてEEのメンバーも熱心に祈り、関わってくださるようになりました。神様は真実な方ですから、その祈りは空しく地に落ちる事はありませんでした。父が最初にイエス様の名によって祈ることを拒まないようになったのは、父が慢性腎不全になって倒れ、またその後さらに悪いことに階段を上る途中で転倒して大腿骨を骨折して手術が必要になった時で、山中先生が伝道してくださった時から実に10年後のことでした。「お父さん、一緒に祈りましょう。」という私の促しに、父はうなずいて心を合わせて祈りました。この頃母にも変化が起きました。以前から「お父さんに合わせる」と話していた母が「こんな大変なことが起こるのに、守って下さっているの

は、神様に違いないわ。私は神様を信じる。」と言って、信仰告白をし、父の救いのために祈る側についたのです。

父は以前、治療する側のトップランナーのような人でしたが、治療される側で人工透析を週に3度受けながら、闘病とりハビリの苦しい生活が続きました。再度自宅で転倒して腰椎を骨折してしまい、母、姉と医師である兄、そして私の4人が心を合わせて父を支え介護しました。そんな苦しみの中、神様に対する父の心は耕され、柔らかくされたのだと思います。冒頭で書きましたように、2024年8月12日、父と子と聖霊の名によって両親が洗礼を受けたのです。それから私たちはよく一緒に家庭礼拝を捧げました。父は徐々に睡眠時間が長くなり、食事の摂取ができなくなり衰弱していき、翌年1月10日に天国に旅立って行きました。私はその日の夕方、父の顔を見て、手を握りながら、「今までありがとうございました」と感謝しました。私も子供が与えられて分かりました。多忙な中、父は隙間の時間で私たち子供たちに関わって愛してくれたのだと。「今から後、主にあって死ぬ死者は幸いである。」(ヨハネの黙示録14章13節) 「御使いはまた、水晶のように輝く、いのちの水の川を私に見せた。川は神と子羊の御座から出て、都の大通りの中央を流れていた。こちら側にも、あちら側にも、十二の実をならせるいのちの木があって、毎月一つの実を結んでいた。その木の葉は諸国の民を癒やした。もはや、のろわれるものは何もない。神と子羊の御座が都の中にあり、神のしもべたちは神に仕え、御顔を仰ぎ見る。また、彼らの額には神の御名が記されている。」(ヨハネの黙示録22章1節から4節) もう地上で父と

会えないことは寂しいですが、私は今、父がこの言葉のように素晴らしい場所、天国にいて、そしてまたいつかきっと会えることを信じています。EEを通して、私たちは人々に福音を伝え、救いに導き、祈っていく人に変えられます。EEを通して力強く働かれるキリストは、十字架上で私たちの罪の刑罰を身代わりに受け、私たちに永遠のいのち、天の御国を下さいます。私の父母も救って下さいました。心から感謝いたします。



杉山牧師(ガウン着)とこの日洗礼を受けられたご両親(斜め後ろ)

証し Testimony



～卒業生・在校生からの生きた証しをご紹介します～

「伝道」による変化

宣教師 韓 正美 (ハン・ジョンミ)

私がEEに出会ったのは2011年度ですが、神のあわれみにより、2017年7月宣教師として日本に派遣され、これまで8の教会にてEEミニストリーに仕えてきました。今まで34名の訓練生が与えられ、EEのOJTによって273名の魂に福音を届けてきました。ところが、これは私がやったことではなく、そのように導いてくださった主の御業だと信じます。というのは、私はそもそも人の前で話すのが苦手で、口数も少ない、内向的な人だったからです。しかし、EEの学びとOJTで私は変えられ、人の前で話すことが苦手でなくなり、特にイエス・キリストを伝えずにはいられなくなりました。そして、福音を宣べ伝え魂が救いに導かれる時の感動は、毎瞬間忘れられないほど嬉しい出来事で、福音によって自分の魂も生かされることをつくづくと感じます。何よりも一人の魂に対する神の御心が分かり、罪と咎によって死んでしまった自分を救い出してくださった主に心から感謝しています。そのため、これこそ神がその子供たちに与えてくださった最大の祝福だと実感し、主が「全世界に出て行き、福音を宣べ伝えなさい」(マルコ 16:15)と仰せられた所以だと受け止めています。

訓練生たちは、修了証を通して、福音アウトラインを繰り返し暗誦する中で、福音をもう一度確かめ確信が強められたという喜びとともに、伝道に対する恐怖が無くなり、今までどのように福音を伝えればよいか分からなかった自分が、伝えるようになったことへの感動を大きな変化として挙げています。そして、何よりも福音を宣べ伝え、魂がイエス・キリストを救い主として受け入れた時の感激を最もドラマティックな変化として挙げており、EEはまさに伝道に対する意識改革を起こしていると言えます。願わくはこのような素晴らしい祝福をより多くのクリスチャンにぜひ体験していただきたいものです。

EEを受講して

伝道師 相川 木綿子

EEは私の主との歩みに、とても大きな節目を迎えさせてくださいました。それは、家族が救われたことです。今回、OJTの一番最初の対象者として母に福音を伝えました。

厳密に言えば、コーチが最初の模範として最初から最後まで伝えてくださいました。実は、母にはそれまでに3回ほど福音を伝えていましたが、受け入れの祈りをすることは断られていました。実際のところ、伝道師という立場もあるからか、母に福音を伝えてほしいと他の人に頼むことができていませんでした。

今回EEの学びを通して、OJTの機会をいただき、最善のコーチが与えられ、母が救われたことが主の助け、導きでした。さらに、母だけでなく、OJT対象者を求める祈りの中で、まだ福音を一度も伝えたことがなかった妹のことを示され、悔い改めの涙が出ました。そして、妹は5人目の対象者であったため、最初から最後まで1人で伝えることができました。妹の受け入れの祈りを導く時には、私は嬉しさのあまり、涙が出て来てしまい、私は内心、宗教っぽいと引かれてしまうのではないかと瞬間的に不安になりました。しかし、妹は祈り終わると、「心のこもったお祈りだねえ…」と言いながら妹も泣いていました。特に、家族に福音を伝えるということは、恐れ、恥ずかしさ、躊躇してしまう要素が多いと思います。特に私のように自分自身が最初のクリスチャンである場合、信じる前と信じた後の自分の姿、自分の神様を信じてもなかなか変わらない弱い面までもよく知っている家族に福音を伝えることは、他の人に伝えるよりも難しいという認識が私自身にありました。

しかし、今回OJTを通して、家族に福音を伝えるメリットを体験しました。それは、妹とOJTが終わって食事をしていた時、妹がこんなことを言いました。「さっきの話、お姉ちゃんが信じているものが、本当に良いものだと思っているから、私に話してくれたんだって思ったよ。」つまり、家族だからこそ、私が自分の利益や誰かの利益のためではなく、私が心から良いと思っている信仰を伝えているのだということが伝わりやすい関係性なのだと悟りました。

このように、自分の家族に福音を伝えて救われるという体験は、日々の信仰生活をより豊かにしてくれました。親や兄弟など一緒に長く暮らしてきた家族が同じ神を知り、信じる告白することが本当に日々の生活の力となると実感しました。祈る時の切なさが、家族に対して福音を伝える前より一層深くなり、受け入れた後も本当に涙を流しながら感謝の祈りを捧げました。御言葉を読む時にも、次に妹に会ったらこの御言葉を一緒に分かち合いたいと思うようになったり、今、家族とは物理的には離れて暮らしていますが、霊的なつながりを実感するようになりました。本当に嬉しい変化です。また、OJTを通して、家族以外にも3人の方々に福音を伝えましたが、その中の1人は、EEを始める直前に久しぶりに神様が送ってくださった路傍伝道から起こされた魂でした。そして、EEをオンラインで学ぶ期間に祈っていると、その魂と不思議に連絡が続き、OJTのアポが取れるまでの関係性に主が導いてくださいました。その魂も今回救われ、信仰の成長のために祈り続けています。

また、他の2人は牧師家庭のお子さんたちでした。2人とも小さい頃から聖書に親しんできてはいましたが、福音をあまりよく知らない状況でした。1人はこのきっかけに週一回オンラインで聖書を共に学ぶことに導かれ、もう1人は続けて聖書を定期的に読む機会が守られています。そして、牧師家庭に生まれた方々は、改めて福音を伝え、分かち合うことで、霊的な満たしを受け取られるのだということが目で見えてはっきり分かりました。本人が自覚されているかどうかは置いておいても、伝え、分かち合う立場から見たとき、本人の表情や口調から心の平安が感じ取れ、実際にいつもより深い話をすることに導かれました。福音をすでに知っているという人にも、OJTを通して福音を聞いてもらうことにも大きなメリットを感じました。

ぜひ、これからは私のこの経験をお分ちし、日本人が日本人に福音を伝えていく喜びと感動と一緒に体験する方々が、次々と起こされることを祈り、仕えていきたいです。

コラム Column

「恵の承知」

山中 知義

恵とは、受けるに値する「憎しみ」に代わって、その対極である「愛」が臨むこと。

恵とは、受けるに値する「怒り」に代わって、その対極である「寛容」が臨むこと。

恵とは、受けるに値する「呪い」に代わって、その対極である「祝福」が臨むこと。

恵とは、受けるに値する「報復」に代わって、その対極である「和解」が臨むこと。

恵とは、受けるに値する「敵意」に代わって、その対極である「友情」が臨むこと。

恵とは、受けるに値する「侮蔑」に代わって、その対極である「敬意」が臨むこと。

恵とは、受けるに値する「裁き」に代わって、その対極である「赦し」が臨むこと。

故に恵とは、被対象者にとって、今それが取り去られたとしても、決して「不条理」には感じられないものである。

それはそもそも受けるに値しないものなのだと重々承知しているからである。むしろ自分が受けるに値するところとは、その対極の扱いであったはずだと重々承知しているからである。自分に臨んだ、この恵こそが、むしろ「不条理」なのだと重々承知しているからである。

そのような恵の承知と共に、恵を受け入れ、恵に生かされている者にとっては、それが続いている毎瞬間が奇跡であり、驚愕であり、畏怖であり、戦慄であり、狂喜であり、感涙である。それが今日も続いているということが。

人間にとって、これ以上の幸福の境地が他にあるだろうか。もしあるとすれば、それは、その恵みが自らの器を超えて、溢れて他者へと流れ伝わるのを体験することではないだろうか。この目で、その恵みが、他者をも救うのを目にすることではないだろうか。そうなるために生きる、それを人生の本懐とする者の何と幸いなことだろうか！

このように恵を承知する者は、もはや人生の目的を問い直すことは決してない。この者を突き動かしているには、ただ神の恵みに対する、身震いかたじけなの伴う辱さと永遠の感謝、それである。



EEのクラスから



EEの授業の中で、「ホームレスの手」というたとえ話を学びます。これは、信仰の説明の際に、「ではキリスト教とは善行を否定する教えなのか」という誤解を回避するために、必要に応じて使うたとえです。

Aさん、信仰とは、ちょうどホームレスの手のようなものです。たとえば、ここに豊かな王様と破産して全てを失ったホームレスがいたとします。そしてこの王様が何と、全財産をこのホームレスに差し出したとします。それはホームレスが生涯頑張っても当然獲得できるような額ではありません。

この状況を理解して下さい。王様にはそうする義務はありません。そしてホームレスには、それを受ける権利や資格はありません。でもホームレスにとっては、その手を伸ばしさえすれば受け取ることができるという状況です。



○年前、一人のホームレスが、その手を伸ばしました。イエス様が、その憐れみと恵みによって差し出して下さった天国（罪の赦し）というプレゼントを、信仰という手を伸ばすことで受け取りました。

そのホームレスとは私のことです。あれ以来、私の人生は大きく変わりました。

私にはそれを受ける資格はありませんでした。今もそれを受ける資格はありません。でも信仰の手を伸ばした結果、私はその恵みに与ることができたのです。そしてあの日以来、私の人生を動かす最大の動機は「感謝」となりました。

Aさん、イエス様を信じる人も喜んで善行を行います。しかしそれは「救われるため」の善行ではありません。むしろ救われたことへの感謝と喜びの故の善行です。ですから聖書は決して、善行を否定などしていません。むしろこのような動機を持って善行に励むことを聖書は勧めているのです。

ポイント

- ①王様に「与える」義務はない、
- ②ホームレスには「受ける」資格も権利もない。
- ③ないない尽くしであるにも拘らず、ホームレスはただ「手を伸ばす」だけでそれを受け取ることができるという奇跡的な境遇にいる。
- ④信仰とは「手を伸ばす」のと同じくシンプルな行為。
- ⑤このたとえ話の目的は、クリスチャンは救われるために善行に励んでいるのではなく、（不条理にも）救われたこと（分不相応な恵みに与ったこと）への感謝と幸甚の思いが善行へ向かわせるのですと明言する。このような動機による善行こそが、神の意図であるということを伝道者側があらかじめ理解しておくことが重要。（エペソ2:10）

自己中心から神様中心へ

EE国際本部会長 ジョン・B・ソレンセン博士

サミーはレバノンのベイルートで育ちました。彼は宗教的熱狂の空虚さを見て、自分のためだけに生きることを決意し、一生懸命働き、大金を稼ぎ、自分の思うままに生きることを目指していました。

やがて彼は国際的なホテルのウェ이터として働き始め、そこで毎週食事をする老夫婦と親しくなります。彼らはEEの訓練を受けたクリスチャンで、常に福音を伝える機会を探していました。一年後、サミーはついに彼らから福音を聞き、キリストに心を捧げました。

クリスチャンになったサミーは、「クリスチャンとしてどう生きるべきか」を考えました。唯一の手本は、彼を気にかけてくれたこの老夫婦だけでした。そこで、彼の人生の目的は「他者のために生きる」ことへと変わり、実際にそのように生き始めたのです。

その後、エルサレムのホテルで働いていたとき、サミーは22歳のある若者と出会いました。彼は、この青年に福音を伝え、キリストにある人生の素晴らしさを示しました。その若者とはフランクリン・グラハムでした。彼はあの伝道師ビリー・グラハムの息子でありながら、長年、放蕩息子のように生きていましたが、サミーとの出会いをきっかけに神様に立ち返ったのです。

これは、たった一組の老夫婦が「他者のために生きる」と決心したことからはまり、フランクリンやサミーを通して、何千、何百万もの人々へと福音の祝福が広がった物語です。今日、サミーはベイルートで牧師を務め、戦争で家を追われた何百万もの人々に食事を提供する働きを続けています。

私たちは皆、「自分のために生きるか、神様のために生きるか」という選択を迫られています。ジョン・マクスウェルは「世界人口とは、ほんの僅かな一人を除いて、全部『他人』で構成されている」と言いました。アルバート・アインシュタインも「人は自分の外側に生きることができたときに初めて本当に生き始める」と語っています。

しかし、自己中心的な生き方にとどまる人は少なくありません。まるで幼児のように、「これは僕のものだ!」という態度で生きているのです。実際、自己中心の人とは「自分を過大評価している人」ではなく、「他者を過小評価している人」なのです。自己中心の罠に陥ると、最も大きな喜びである、他者との関わりを通して得られるものを失ってしまいます。

聖書には、成熟へと成長した神の人の姿が描かれています。エリヤが天に上げられた日(列王記第二 2:1-14)、彼はエリシャに「ギルガルにとどまりなさい」と言いました。ギルガルはイスラエルが約束の地に入った最初の場所であり、エリシャの出身地でもありました。しかしエリシャは、「いいえ、私はあなたと共に

行きます」と答えました。

多くの人は、信仰の「入り口」でとどまってしまいます。「救われたからもうそれで十分」と思い込み、成長しようとしません。これは「ギルガルにとどまる」と同じです。

次に、エリヤは「ベテルにとどまりなさい」と言いました。ベテルは、神がヤコブに語られた場所であり、「神の家」と名付けられました。ここには預言者たちがいて、神の言葉を教えていました。今日、多くのクリスチャンが、学びや礼拝に満足し、それ以上の行動を起こさないという罠に陥っています。知識を得ても、それを実践しなければ意味がありません。

次に、彼らはエリコへ行きました。エリコはイスラエルの大勝利の地でした。しかし、過去の勝利に執着することでもまた危険です。「あの時は良かった」と過去の栄光にしがみつき、今なすべきことを見失うことがあるのです。

最後に、彼らはヨルダン川を渡りました。聖書において、ヨルダンはいしばしば「新しい人生への移行」を象徴します。エリシャはしもべとして渡り、預言者として戻ってきました。彼は神の働きに自らを捧げ、新しい人生を得たのです。

神に完全に人生を委ねたクリスチャンの人生ほど、素晴らしいものではありません。「あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。」(1コリント 6:19-20) 神の栄光のために生きる者こそ、世界をキリストに導く神の鍵となるのです。

あなたは、どの生き方を選びますか？

個人伝道訓練13週クリニック

zoom

EEJapan



「わたしについて来なさい。
人をとる漁師にしてあげよう。」(マルコ1:17)

2025年秋期コース生徒募集中

2025.9/1(月)～12/1(月) (全13課) 毎週月曜日 10:00～12:00
キャンペーン中につき9/1の授業(導入課)のみ、どなたも無料で視聴頂けます。ぜひご参加ください。

受講費 16,000円 (教材費・事務手続き費込み)

お申し込みはこちらから ➡

✉ info@eejapan.com ☎ 090-2038-1634 (事務局)



Information インフォメーション

①EE Japan オフィシャルウェブサイト オープン!

EE Japan の公式ウェブサイトが公開されました。
ぜひご覧ください。

<https://www.eejapan.com>

②証しブックレット『我限りなき愛をもて』発売!

EE Japan 代表・山中知義師の証しブックレット『我限りなき愛をもて／救いの日からEEとの出会いまで』が出版されました。

価格：300 円(税込)

EE の紹介にも活用できますので、ぜひお買い求めください。

③季刊誌『行きて伝えよ』新装リリース!

EE Japan のオフィシャル季刊誌が今号より新装リリースされました。

発行予定：4 月・8 月・12 月

紙ベースでのお求めの方は、お申し出ください。

④毎週水曜日 21:30～ EEの祈り会〈Zoom開催〉

EE Japan 理事長・高橋裕子師を中心に、Zoom で祈り会が開かれています。

どなたでもご参加いただけますので、ぜひご参加ください。

〈Zoom ミーティング〉

ID: 883 9235 5160

パスコード: 771672

参加リンク: <https://us02web.zoom.us/j/88392355160?pwd=MGozWVd2YjZkL3BSWGJPZTJRZWQ0Zz09>

⑤EE リーダーシップクリニック開催

〈4月2日(水) 10:00-15:00〉

13 週クリニックを修了された方向けです。本クリニックを修了された方は、EE をどこでも主催し指導できるライセンスを受けられます。

⑥秋期オンライン13週クリニック(9月1日～12月1日)

参加をご希望の方は、お早めにお申し込みください。

2024 年度 財政報告

収 入

項目	金額(円)
献金	1,530,328
テキスト等販売	85,400
その他	22,439
収入合計	1,638,167

支 出

項目	金額(円)
宣教活動費	181,300
運営管理費	1,109,962
支出合計	1,291,262

EEJapan の働きは、皆様の尊い献金によって支えられています。心より感謝申し上げます。主が皆様一人ひとりに豊かに報いてくださいますよう、お祈りいたします。

祈りの課題

●EEの働きの発展のために

1. EE の働きを通して、一人でも多くの方が福音を伝える備えをし、伝道者として用いられるように。
2. 伝道者を育成する指導者が、一人でも多く起こされるように。
3. EE クリニック受講生たちが、良き OJT (実地訓練) 体験が出来るように。また「天与の出会い」体験をするように。
4. EE の働きを通して、教会の未来を担う献身者が各地に起こされるように。

●現在進行中・今後の取り組みのために

5. 現在進行中の「春期 EE13 週クリニック」の受講者たちの OJT 活動が祝福され、多くの人々に福音が届くように。
6. 9 月 1 日から始まる「秋期 EE13 週クリニック」に、主が選ばれた受講生たちが集められるように。

7. EEJapan の代表・山中知義師の証しブックレット『我限りなき愛をもて』が近々発行されます。これが祝福され、EE の紹介のために用いられるように。

●EEJapanの組織とリーダーシップのために

8. EEJapan が、健全で持続可能な組織として確立されるように。
9. EEJapan の指導者たちが、祈りをあらゆる活動より最優先する霊性を常に維持できるように。
10. EEJapan の働きに必要な財政と人材が、主の豊かな御手によって満たされるように。

●個人的な課題と神の栄光のために

11. EEJapan の代表・山中知義師のご家庭に、4 月 10 日から障害のある女の子の赤ちゃんが養子として迎えられます。この赤ちゃんの人生が祝福され、豊かに神様の栄光が現れるように。

発行: EE Japan 代表者: 山中知義 編集責任者: 山中智子(編集長)
発行日: 2025 年 4 月 10 日(春号) / 発行頻度: 季刊(春号・夏号・冬号)
〈編集・発行所〉EE Japan 事務局
〒616-8163 京都市右京区太秦西蜂岡町 27-10 TEL.090-2038-1634
E-mail: info@eejapan.org / ホームページ: www.eejapan.com
印刷・製本・レイアウト: (京) ニューライフ・ミニストリーズ 新生宣教団

〈献金振込先〉

- 銀行名: 京都銀行 帷子ノ辻(カタビラノツジ)支店
口座番号: 普通 3699909
名義: 一般社団法人エバンゲリズムエクスプロージョンジャパン
- 銀行名: ゆうちょ銀行
振替口座 00960-8-195432
名義: 日本爆発伝道協会
(同封の用紙をお使いください。手数料は無料です)